

# 平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 マガレイ

学名 *Pleuronectes herzensteini*

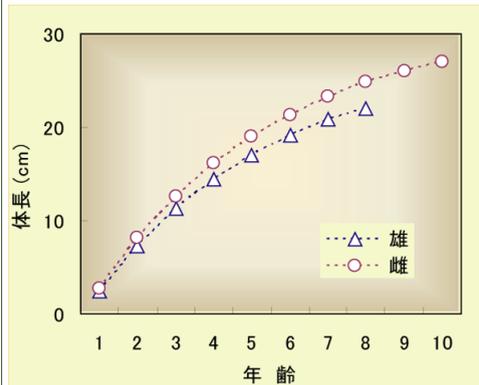
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



## 生物学的特性

寿命: 雌10歳、雄8歳  
 成熟開始年齢: 雌3歳、雄2歳  
 産卵期・産卵場: 新潟県沿岸で2～5月(3～4月が盛期)、産卵場は水深50～90m付近  
 索餌期・索餌場: 夏～秋季に沖合の陸棚上  
 食性: 多毛類、二枚貝、小型甲殻類  
 捕食者: 不明

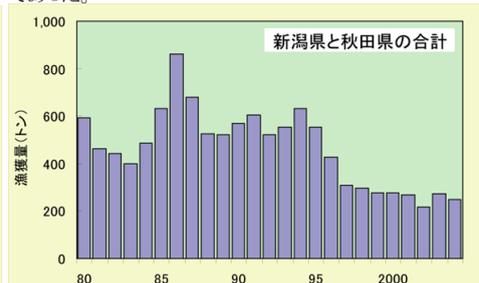
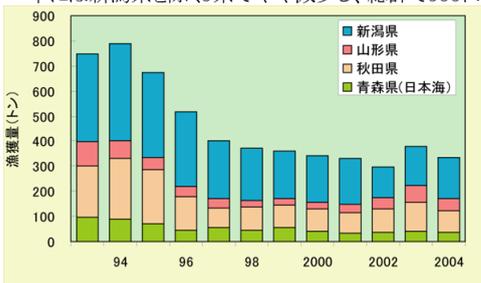


## 漁業の特徴

日本海北部でマガレイを対象としている主要漁業は、底びき網漁業と刺網漁業である。その比率は、漁獲量(2004年)で見ると底びき網漁業で63%、刺網漁業で29%と全体の9割以上を占めている。また県別にみると新潟県と秋田県の漁獲に占める割合が高い。

## 漁獲の動向

日本海北部で漁獲量の殆どを占める新潟、山形、秋田及び青森県の漁獲量が把握されたのは1993年以降に限られる。そこで比較的長期的な資料が整備されている新潟県と秋田県の漁獲量の推移をみると、1986年と1994年に漁獲量のピークが見られるものの、1995～1997年に大幅に減少した。その後ゆるやかに減少傾向が続いているが、2004年には新潟県を除く3県でやや減少し、総計で333トンであった。



## 資源評価法

マガレイは農林統計の全国集計対象種ではないので、系群全体の漁獲量を正確に把握する統計データが無い。したがって、日本海北部の漁獲量の殆どを占める新潟、山形、秋田、青森の4県の漁獲量の経年変化を用いて資源の評価を行った。資源動向の参考として、沖合底びき網漁業、新潟県の板びき網漁業及び新潟県による幼稚魚分布調査の結果を参照した。

## 資源状態

2004年の漁獲量(333トン)は、山形県以北では前年をやや下回り、1999～2001年の低いレベルにとどまった。板びき網漁業や沖合底びき網漁業(1そうびき)のCPUEからも、現在の資源状態は1980年以降では低水準にあると判断された。動向は、底びき網においては、近年、漁獲努力量が減少傾向にあるが、CPUE(または資源密度指数)が90年代後半からは横ばいないし増加していること、2004年には前年に比べるとやや漁獲量は下がったが、1997年以降大きな動きがないことから、横ばいとみなされた。2004年に新潟県において幼稚魚(0～2歳)が多く採集され、来年以降の資源の増加に結びつく可能性がある。



## 管理方策

1997年以降、資源水準は低位で横ばい傾向にあると判断された。資源を少しでも回復させるためには、取り残しを増やす(漁獲努力を下げる)ことは必須である。新潟県では2004年の春季に、幼稚魚(特に、0歳と1歳)の分布量が多いことが確認された。評価対象の2006年には、2004年時の1歳年級が新潟県における漁獲の主体である3歳魚(他3県では、規制の関係から3～4歳が中心)となることから、現状の漁獲努力を低下させることは積極的な小型魚保護につながるものと思われる。なお、水産庁では2003年7月に日本海北部のマガレイを対象とした、減船、休漁、保護区の設定などによる「資源回復計画」を作成した。

	2006年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	270トン	0.8Cave3-yr	-	-
ABCtarget	220トン	0.8・0.8Cave3-yr	-	-

#### 資源評価のまとめ

- 漁獲量の推移や参考となる漁業・調査情報から、資源水準は低位、動向は横ばい傾向と判断される
- 漁獲努力量は過剰と推測される
- 2006年に完全加入する年級の豊度が高いと思われるので、漁獲努力量の削減は必須である

#### 管理方策のまとめ

- 資源水準の回復・維持のためには漁獲努力量の削減が必要
- 水産庁では2003年7月に「資源回復計画」を作成

資源評価は毎年更新されます。  
2005.12.8更新